

平成 22 年度

## 病害虫発生予報第 2 号

平成 22 年 5 月 27 日

### 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.jp/boiyosyo/>

## 目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	12
5. 今月のトピックス （プラスタムを利用した水稻の葉いもち予防について）	13
6. 気象のデータ	14
7. おしらせ	16

## 1. 向こう 1 か月の予報と対策

### 1) 作物

イネでは、葉いもちの発生時期は**平年並**、発生量は**平年並**と予想されます。イネクロカメムシの発生量は**やや少**と予想されます。イネミズゾウムシの発生時期は**やや遅**、発生量は**やや少**と予想されます。

### 2) 果樹

カンキツでは、かいよう病（中晩柑）の発生量は**やや多**と予想されますので、幼果への感染防止のため予防散布を実施してください。そうか病、黒点病、かいよう病（温州みかん）の発生量は**平年並**、ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや少**と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量は**やや多**と予想されますので、今後の降雨に注意して、予防散布を実施してください。ハダニ類の発生量は**平年並**と予想されます。

ブドウでは、べと病の発生量は**やや多**と予想されます。今後の降雨に注意して、予防散布を実施してください。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**多**と予想されます（注意報第

1号、5月26日発表）。ナシ、カキ等園地への飛来に注意し、確認したら防除を実施してください。

### 3) 茶

チャでは、もち病の発生量は**平年並**、炭疽病、カンザワハダニの発生量は**やや少**、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量は**少**と予想されます。

### 4) 野菜

イチゴでは、うどんこ病の発生量は**やや多**と予想されますので、発生が認められる圃場では、広がらないように防除をしてください。炭疽病は**平年並**と予想されます。

ネギでは、ネギコガの発生量は**やや少**と予想されます。

野菜共通では、コナガの発生量は**やや少**と予想されます。

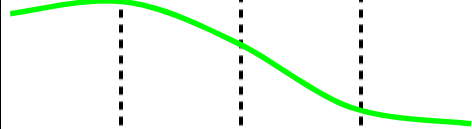
## 2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
			発生時期	発生量		5月	6月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	葉いもち	平年並	平年並	小	普通					1) 本田粒剤による予防防除は、初発前に行ってください。いもち病発生予測支援システム（プラスタム）において感染好適条件の現れた7～10日後に初発が予想されます。 2) プラスタムの最新情報は病害虫防除所ホームページで随時更新しています。
	イネクロカメムシ	—	やや少	小	普通					1) 少発生の予想ですが、前年発生の多かった圃場では、常発する傾向があるので、被害状況に注意してください。
	イネミズゾウムシ	やや遅	やや少	小	低					1) 株あたり0.5頭以上の成虫が発生していなければ、防除の必要はありません。
カンキツ	そうか病	—	平年並	小	普通					1) 梅雨明けまで、幼果実に感染します。 2) 6月以降は新芽や幼果の病斑から二次感染するので、発生している園地では、予防散布が重要です。
	黒点病	—	平年並	小	普通					1) 生理落果盛期～後期に予防散布を実施してください。 2) 上記薬剤散布後、積算で200mm以上の降雨があったら、次の防除を実施してください。 3) 枯枝が伝染源です。樹冠内や圃場内の枯枝を除去して下さい。生理落果盛期～後期に予防散布を実施してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	かいよう病	—	温州 平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>例年発生する圃場や本病に弱い品種では、幼果への感染防止対策として、予防散布を実施してください。</li> <li>中晩柑類では、梅雨期頃から10月中下旬頃まで、果実への感染が起きます。</li> </ol>
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>梅雨期は薬剤散布のタイミングが取りにくいです。マシン油乳剤等を有効に利用する散布を計画して下さい。</li> <li>ミカンハダニが増加する前に、散布ムラのないように十分に薬剤散布してください。</li> <li>同一系統薬剤使用は年1回としてください。</li> </ol>
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>例年被害の多い圃場では、6月上旬～中旬に防除し、その後は30日間隔を目安に次回の防除を行ってください。</li> </ol>
ナシ	黒星病	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>発病葉は発見次第取り除き、圃場外へ持ち出して処分してください。</li> <li>薬剤散布にあたっては、同一作用性を示す薬剤の連用を避けてください。</li> </ol>
	ハダニ類	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>防除の目安は成虫の1葉当たり寄生虫数が1頭以上の時です。</li> <li>殺ダニ剤は抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の使用は年1回としてください。</li> </ol>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						5月		6月		
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ブドウ	べと病	—	やや多	小	普通					1) 雨が続くと急激に発生が広がります。降雨が予想される時は、早めに予防散布を行ってください。 2) 葉裏をよく観察して、病斑を認めたら、直ちに防除を実施してください。 3) 被害葉、被害花穂は、発見次第取り除いて、圃場外に持ち出し処分してください。
果樹共通	カメムシ類	—	多	大	高					1) 注意報第1号（5月26日発表）。 2) 圃場をよく観察して、初期の飛来を確認します。夜温が急に高くなると、活発に飛翔します。園地付近の街灯などでも飛来の兆候を観察してください。 3) ナシ等では飛来を確認したら防除を実施してください。 4) 地域で発生量が多い場合は、一斉防除を検討してください。
チャ	炭疽病	—	やや少	小	普通					1) 病原菌は開葉して間もない柔らかい新葉にだけしか侵入できないので、新芽の生育期が薬剤散布の適期です。 2) かぶせ茶を栽培した圃場では発病する危険が高まります。
	もち病	—	平年並	小	低					1) 雨が続く場合は、特に山間部では発生しやすくなります。 2) 二番茶芽の萌芽期から1葉開葉期の薬剤散布が効果的です。
	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通					1) 気温の上昇とともに増加します。全体には発生は少ないですが、圃場によって発生の差があるので、注意が必要です。発生状況を確認して防除してください。 2) 薬剤抵抗性を獲得しやすいため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消の一例				防除の注意事項	
						5月		6月			
						下旬	下旬	中旬	下旬		
チャ	チャノホソガ	—	少	小	低	成虫密度					1) 防除適期は新芽が展開し幼虫が葉裏にいる時期です。
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	少	小	低	成虫密度					1) 二番茶芽の2葉期までに防除が必要です。 2) 成虫よりも幼虫による加害の方が大きな被害になります。
	チャノキイロアザミウマ	—	少	小	低	成虫密度					1) 新芽の裏に産卵します。
イチゴ	うどんこ病	—	やや多	大	普通	親株					1) 今後1か月は感染しやすい時期です。 2) 薬剤散布は、予防に重点をおき、発病を認めたときは広がらないようにすみやかに防除をしてください。 3) 葉裏から発生しやすいので、薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布してください。
	炭疽病	—	平年並	中	普通	親株					1) 灌水は、水滴が跳ね返り茎葉に当たらないように行ってください（やさしく手灌水、チューブ灌水）。 2) これから梅雨・高温期にかけて降雨に注意しながら防除を徹底してください。 3) 薬剤散布は、株元まで十分かかるようにし、畝やベンチの両側からも散布してください。
ネギ	ネギコガ	—	やや少	小	普通	成虫密度					1) 幼虫が葉の内部に潜るので、潜入防止のため発生初期からの防除が効果的です。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
						5月	6月				
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬		
野菜共通	コナガ	—	やや少	小	普通	成虫密度 					<p>1) 近年、大きな被害は見られませんが、年間 10～12 世代も発生し、繁殖力が旺盛でアブラナ科野菜の重要害虫です。</p> <p>2) 薬剤抵抗性の発達しやすい害虫なので、同一系統薬剤の連用をさけてください。</p>



### 3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	平年並	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) プラストムによると、感染好適日が5月26日に初出現（平年5月28日）（発生時期±）</li> <li>2) 1か月予報（5月21日発表）によると、期間の後半は曇りや雨の日が多い見込み（+）</li> <li>3) 巡回調査圃場（5月第3週）では、置き苗での発生率0%（5年平均0.24%）と平年並に少ない傾向（±）</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は無～平年並（概して無）（-）</li> </ol> <p>考察： プラストムを考慮して、発生時期は平年並、一般圃場では少ない状況ですが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	イネクロカメムシ	-	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予察灯（松阪市）では、昨年8月第2半旬～10月第6半旬における誘殺数は水田位置7頭（平年52.4頭）と少。同・畑位置746頭（平年2419.9頭）と少（-）</li> <li>2) 予察灯（松阪市・4月第1半旬～5月第4半旬）では、水田位置0頭（平年0.2頭）と平年並に少、畑位置3頭（平年4.4頭）と平年並（±）</li> </ol> <p>考察： 昨年の誘殺数から越冬成虫量は少と考えられるため、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	イネミズゾウムシ	やや遅	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報（5月21日発表）によると、気温は高くない予想（発生時期+）</li> <li>2) 予察灯（松阪市・4月第1半旬～5月第5半旬）では、42頭（平年74.2頭）と少（-）</li> <li>3) 巡回調査圃場（5月第3週）では、被害株率は31.6%（平年33.2%）と平年並、株当たり虫数は0.04頭（平年0.06頭）と少（±）</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は無～平年並（概して少）（-）</li> </ol> <p>考察： 予察灯および一般圃場の状況を重視して、幼虫の予想発生時期はやや遅、予想発生量はやや少と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報（5月21日発表）によると、気温は高くなく（-）、後半は曇りや雨の日が多い予想（+）（±）</li> <li>2) 県予察圃（5月中旬）では、発病葉率31.8%（平年29.8%）、発病果率0%（平年0.5%）と平年並（±）</li> <li>3) 巡回調査圃場（5月第3週）では、病斑は未確認（平年発病度0.1）（-）</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は平年並（±）</li> </ol> <p>考察： 現状の発生は平年並に少なく、急増する要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	黒点病	－	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月21日発表）によると、後半は曇りや雨の日が多い予想（＋）</p> <p>2) 冬期の落葉は少なく（－）、感染源となる枯れ枝は平年並（±）の状況（±）</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	－	温州 平年並  中晩柑 やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月21日発表）によると、気温は高くなく（－）、後半は曇りや雨の日が多い（＋）予想（±）</p> <p>2) 県予察圃における新葉での初発は、5月13日（平年5月13日）と平年並（±）</p> <p>3) 県予察圃（5月中旬）では、発病葉率0%（平年1.9%）と少（－）</p> <p>4) 巡回調査圃場（5月第3週）では、旧葉における平均発病度は温州みかんでは0と少の傾向、中晩柑では2.1とやや多の傾向（±）</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概してやや少）（－）</p> <p>考察： 温州みかんでは、現状の発生は平年並に少なく、今後の増加を考慮しても予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	ミカンハダニ	－	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月21日発表）によると、気温は高くなく、後半は曇りや雨の日が多い予想（－）</p> <p>2) 県予察圃（5月中旬）では、100葉当寄生虫数は、無防除区で0.0頭（平年31.3頭）と少、防除区で0頭（平年1.3頭）と平年並（－）</p> <p>3) 巡回調査圃場（5月第3週）では、旧葉における平均寄生葉率は14.5%（平年8.0%）とやや多、1葉当平均寄生虫数は0.50頭（平年0.59頭）と平年並（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概して少）（－）</p> <p>考察： 現状の発生量は少と見え、今後の増加を考慮して、予想発生量はやや少と見えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	－	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月21日発表）によると、後半は曇りや雨の日が多い予想（－）</p> <p>2) 一般圃場では、発生量はやや少（－）</p> <p>考察： 現状の発生量はやや少と見え、大きな増加の要因がないので、予想発生量はやや少と見えます。</p>
ナシ	黒星病	－	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月21日発表）によると、気温は高くなく、後半は曇りや雨の日が多い予想（＋）</p> <p>2) 巡回調査圃場（5月第3週）では、平均発病葉率0.4%（平年0.2%）とやや多（＋）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概してやや少）（－）</p> <p>考察： 今後の気象要因を重視して、予想発生量はやや多と見えます。</p>



作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	ハダニ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、気温は高くなく、後半は曇りや雨の日が多い予想 (—)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均寄生葉率は0%(平年0.2%)、1葉当平均寄生虫数は0頭(平年0.02頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～やや少(概してやや少) (—)</p> <p>考察：現状の発生は平年並に少なく、大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
ブドウ	べと病	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、気温は高くなく、後半は曇りや雨の日が多い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病は未確認(平年発病葉率0%) (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：今後の気象要因を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	—	多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町：5月上中旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ2,080頭(平年597頭)と多、ツヤアオカメムシ3,416頭(平年1,563頭)と多 (+)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市：5月上中旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ169頭(平年115頭)とやや多、ツヤアオカメムシ36頭(平年12頭)と多 (+)</p> <p>3) フェロモントラップ(5月1日～5月23日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で243頭(平年143頭)と多、中間地(津市白山町二本木)で478頭(平年239頭)と多、平坦地(松阪市嬉野川北町)で291頭(平年40頭)と多 (+)</p> <p>4) 巡回調査圃場(5月第3週)では、飛来を確認、カンキツで0.3頭(平年カンキツ0.3頭) (±)</p> <p>5) 一般圃場では、カンキツでやや多、カキでやや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察：今後、ナシ、カキ等への飛来が始まると考えられ、予想発生量は多と考えます。</p>
チャ	炭疽病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、気温は高くなく(—)、後半は曇りや雨の日が多い(+ )予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均発病葉数0(過去7年平均0.2)と少の傾向 (—)</p> <p>考察：今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	もち病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、気温は高くなく(—)、後半は曇りや雨の日が多い(+ )予想 (±)</p> <p>2) 前年(10月中旬)の一般圃場では、発生量は少 (—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、発病葉数0(平年0.0) (±)</p> <p>考察：現状は平年並に少と考えられ、大きな増減の要因はないので、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、気温は高くなく、後半は曇りや雨の日が多い予想 (—)</p> <p>2) 県予察圃場(5月上旬)では、寄生葉率は4.6%(平年32.8%)、平均寄生虫数は5.8頭(平年28.8頭)と少 (—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均寄生葉率は5.8%(平年6.2%)、平均寄生虫数は0.14頭(平年0.14頭)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (—)</p> <p>考察：大きな増減の要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノホソガ	—	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、後半は曇りや雨の日が多い予想 (—)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(4月第2半旬~5月第4半旬)では、誘察数は374頭(平年888頭)と少 (—)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少 (—)</p> <p>考察：現状の発生量は少と考えられ、大きな増加の要因はないので、予想発生量は少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、後半は曇りや雨の日が多い予想 (—)</p> <p>2) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第6半旬~5月第4半旬)では、誘察数は0頭(平年5.6頭)と少 (—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均寄生虫数0.5頭(平年1.1頭)と少 (—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は少と考えられますが、大きな増減の要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	—	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、気温は高くなく、後半は曇りや雨の日が多い予想 (—)</p> <p>2) 県予察吸引粘着トラップ(4月第6半旬~5月第4半旬)では、誘察数は221頭(平年1,784頭)と少 (—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第3週)では、平均寄生虫数は3.5頭(平年9.23頭)と少 (—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現在の発生状況は少と考えられ、大きな増可の要因はないので、予想発生量は少と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、気温は高くなく、後半は曇りや雨の日が多い予想 (+)</p> <p>2) 一般圃場での発生は平年並~やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察：一般圃場での発生状況を重視し、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月21日発表)によると、気温は高くなく(—)、後半は曇りや雨の日が多い(+ )予想 (±)</p> <p>2) 現在、親株床で特に目立った発生はなし (±)</p> <p>考察：現在は特に目立った発生はありませんが、期間後半に曇りや雨が多い気象要因を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ネギ	ネギコガ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月21日発表）によると、後半は曇りや雨の日が多い予想（－）</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ（4月5半旬～5月4半旬）では、誘殺数は341頭（平年134.8頭）と多（＋）</p> <p>3) 巡回調査圃場（5月第3週）では、被害葉率0.2%（平年0.1%）とやや多（＋）</p> <p>4) 一般圃場での発生量は少（－）</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。</p>
野菜 共通	コナガ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月21日発表）によると、後半は曇りや雨の日が多い予想（－）</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ（4月5半旬～5月4半旬）では、誘殺数は12頭（平年313.3頭）と少（－）</p> <p>3) 一般圃場での発生量は平年並（±）</p> <p>考察： 大きな増加要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。</p>

## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

**発生時期（平年比）：** 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

**発生量（平年比）：** 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

**発生量（程度）：** 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

**要防除圃場率（平年比）：** 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていけばいいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

**発生消長の一例：** 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

**防除の注意事項：** 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

## 5. 今月のトピックス 「ブラスタムを利用した水稻の葉いもち予防について」

いもち病の発生予察型の防除体系は、種子更新および種子消毒+葉いもち予防（初発前・粒剤）+穂いもち予防（出穂1~2週間前・粒剤）です。葉いもちの初発は6月中旬頃ですが、いもち病発生予測支援システム（ブラスタム）を利用した、葉いもちの効果的な予防防除を紹介します。

### ◆ブラスタムによる葉いもち発生時期の予測◆

ブラスタムは、気象台提供のアメダス気象データを基に、葉いもちの発生時期を予測するシステムです（最新情報は病害虫防除所ホームページで公開しています <http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/tyosasuitou/index.htm>）。

右表はいもち病が多発生であった、1993年のパターンです。表中では6月19日に県内の広い範囲で●が並んでいます。このことは、7~10日後に広範囲で葉いもちの流行する前段階、つまり地域のほとんどの水田で葉いもちの病斑が分布している状態（広域的初発生時期）となることを予測しています。1993年はこのような感染好適条件が、出穂期まで7~10日ごとに繰り返し現れたため、多発生となりました。

葉いもちは発生前の予防的な防除が重要ですが、このようにブラスタムで発生時期を予測することで、適期に効果的な薬剤防除ができるようになります。

### ◆葉いもち初発前の本田粒剤による防除◆

#### 感染好適条件が初めて現れる時期の散布

抵抗性誘導剤（商品例；オリゼメート、プイゲット）は、初発の7~10日前の散布が効果的です。感染好適条件は平年5月28日頃から現れ始めます。

#### 感染好適条件が現れてから7~10日後の散布

ストロビルリン系殺菌剤（商品例；オリブライト）は、広域的初発生時期に散布すると特に効果が高いです。

なお常発地では育苗箱施用での防除が行われていますが、徐々に残効が低下しますので、6月中旬以降はブラスタムの情報を参考に発生状況を確認してください。その他、天気予報や発生予察情報も参考に防除対策を進めてください。

### いもち病発生予測支援システム・ブラスタムの一例

1993	桑名	四日市	亀山	津	上野	羽見	小浜	南伊勢	紀伊長島	尾鷲
6/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/19	●	-	●	-	●	●	-	-	●	●
6/20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/24	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-
6/25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/29	●	-	●	●	●	●	●	●	-	-
6/30	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●
7/01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/07	●	-	●	-	-	-	●	●	●	●
7/08	●	●	●	●	-	-	-	-	-	●
7/09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

凡例 ●:いもち病菌の感染に好適な気象条件(感染好適条件)であったことを示す。  
この日から7~10日後に葉いもちの病斑が現れることが予測される。

## 6. 気象のデータ

### 東海地方1か月予報 (平成22年5月21日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう1か月は、平年と同様に、期間の前半は天気は数日の周期で変わりますが、後半は気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。期間の前半に寒気の影響を受ける時期がある見込みです。

1週目 5月22日～28日	期間はじめと終わりは高気圧に覆われて概ね晴れますが、その他は気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。	晴れ日数の平年値 約4日
2週目 5月29日～6月4日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。寒気の影響を受ける日がある見込みです。	同 約4日
3～4週目 6月5日～18日	気圧の谷や前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。	同 約6日

### 東海地方週間天気予報 (平成22年5月26日5時 名古屋地方気象台発表)

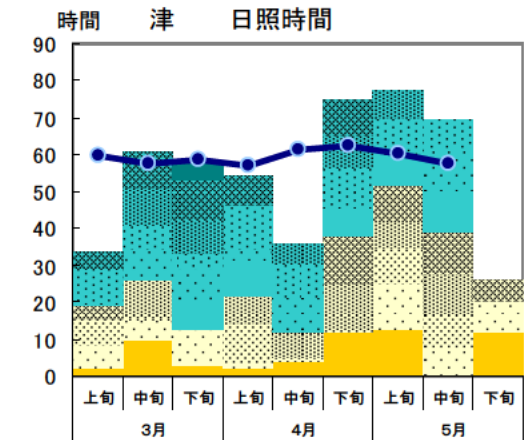
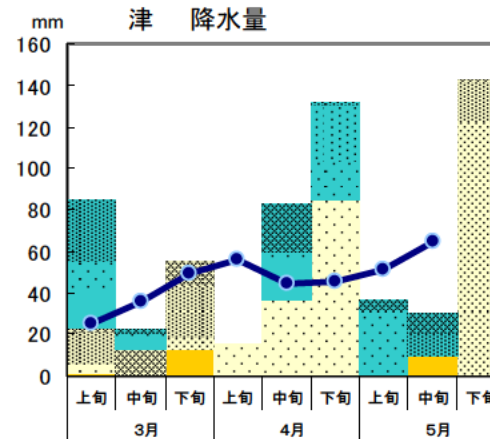
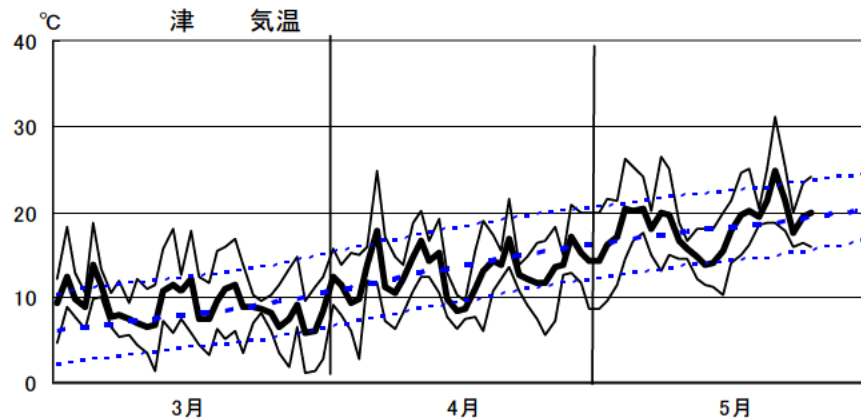
予報期間 5月27日～6月2日

向こう一週間は、気圧の谷の影響で雲が広がりやすいでしょう。期間のはじめには高気圧に覆われて晴れる日がある見込みです。

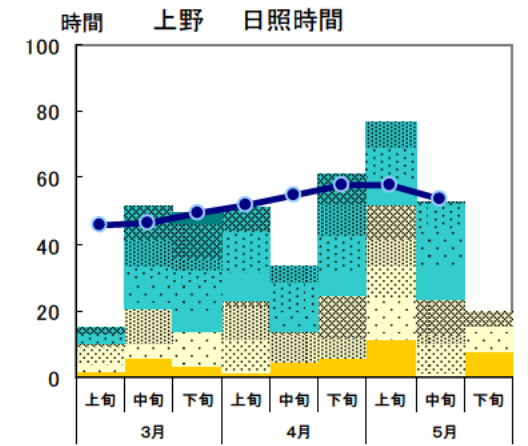
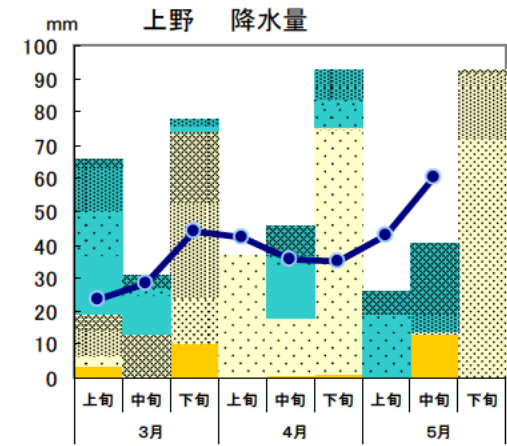
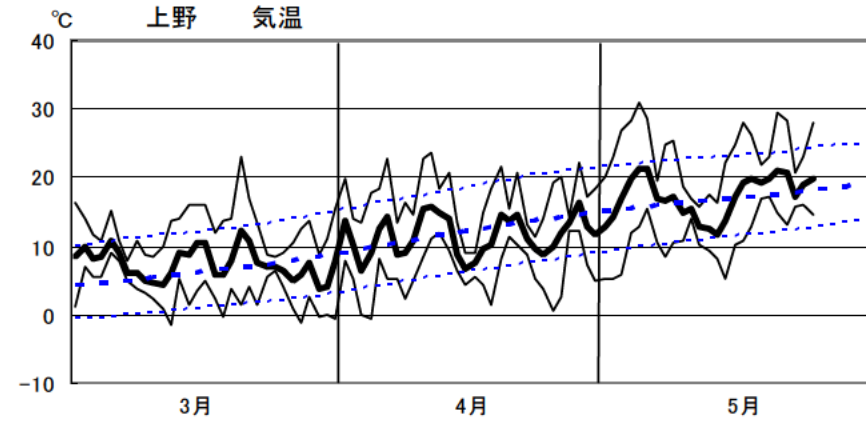
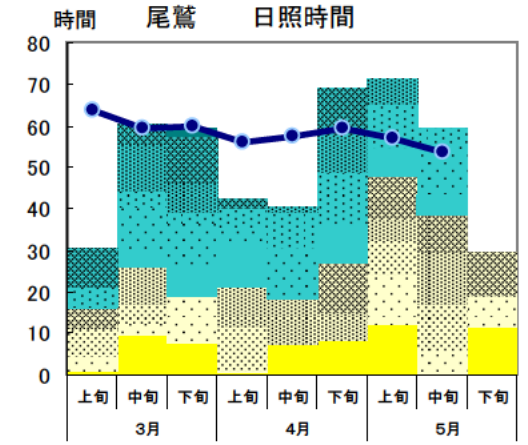
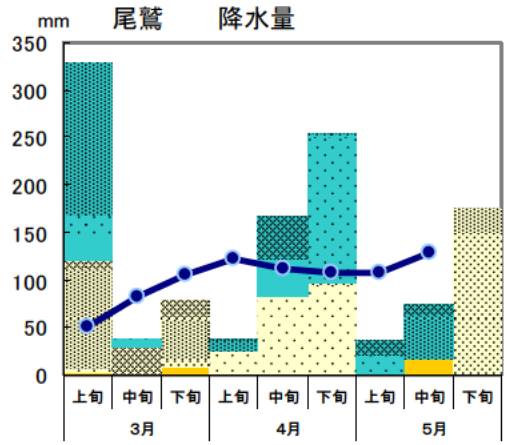
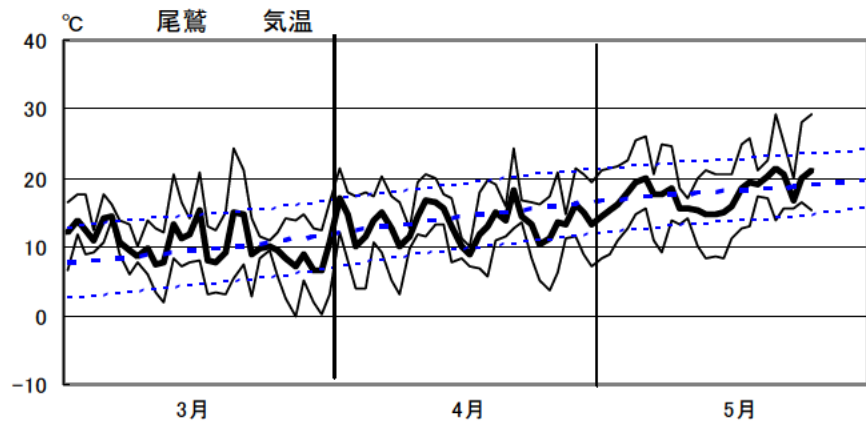
最高気温と最低気温はともに、平年より低く、かなり低くなる日もあるでしょう。

降水量は、平年より少ない見込みです。

### 気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (5月25日まで)







凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 年平均
- - - 年最高
- - - 年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平均値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平均値



## 7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

### 1) 記載基準の注意点

本年度から、平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

### 2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 第1回 4月22日(済み) | 第2回 5月27日(今回) |
| 第3回 6月24日(木)  | 第4回 7月22日(木)  |
| 第5回 8月26日(木)  | 第6回 10月21日(木) |
| 第7回 3月17日(木)  |               |

### 3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

### 4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

[http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/files/h22yohotebiki\\_.pdf](http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/files/h22yohotebiki_.pdf)

### 5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

### 6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>